

特集2 住之江区 今こそ、地域を結ぶ 交流会

住之江区では、平成25年度から年3回の頻度で交流会を開催しています。今回のテーマ「子どもの居場所・子ども食堂」について区内4事例の紹介のあと、グループワークで参加団体の強みを活かした協働の在り方を話し合いました。



毎回100人近い参加者が集まります

第2回企業・NPO・学校・地域交流会

NPOも地域も子ども食堂

12月20日すみのえ舞昆ホールで「第2回企業・NPO・学校・地域交流会」が開催され、住之江区の地域社会をもっと盛りあげたいと多様な約100人が集まりました。住之江区まちづくりセンターのスーパーバイザーであり、その総合研究所リーナルビジネス部長 藤原明さんがコーディネーターを務め、住之江区長西原昇さんをはじめ行政職員も多く参加しました。

はじめに、日曜日から木曜日に子どもから高齢者まで、一汁三菜メニューを安価で食べることが出来る「Hugging Cafe」はぐ食堂を運営するNPO法人すみのえ育代表理事 伊達美寿保さんから発表がありました。

毎週水曜日の「こどもじかん」では、おこづかいの使い方講座や、My箸づくりなど地域のNPOや企業と積極的に交流しています。いろんな大人との出会いが、子どもたちの将来の仕事の選択の幅を広げることにつながると参加者へ協力を訴えました。次に、ささか加賀屋協議会民生委員長 丸尾耕一さんから、月2回、区内のコミュニティ農園 北加賀屋みんなのうえんで行う「加賀屋ニコニコ食堂」の開催頻



NPO法人すみのえ育 代表理事 伊達美寿保さん(左)と意見交換する地域住民

度を増やすためには、場所と担い手の確保が必要との話がありました。

続いて、ささか平林協議会副会長 佐野悦子さんから、月2回、平林福祉会館で実施する「ひらこや」で使用する教材や、長期休暇中などの余暇活動の充実を求めていること、最後に安立連合地域活動協議会のネットワーク推進委員の池田順子さんからは、誰でも気軽に立ち寄れる拠点づくり「高齢者の居場所づくりと親子食堂」を来年開設に向けて模索中との発表がありました。大人の愛情を感じてほしい、心の貧困を失くし、将来の希望がもてる地

域を作りたいとそれぞれの想いを語りました。

団体の垣根を越えて

後半のグループワークでは、「農園で地産地消の食材を確保する」「学生ボランティアの関わり」「ネット上で情報発信」「職業体験」などキーワードが飛び交いました。交流会に参加していたハルオ株式会社 川本祥吾さんは「参加してすごく良かった。具体的に何ができるのかがわかってきた」と意欲的。

交流会から生まれた協働事例集や、交流会から派生した「地域活動応援サークル」の案内「地域を元気にするビジネスプランコンテスト」の募集要項が配られるなど住之江区のまちづくりへの本気度はかなり高め。みんな顔を合わせて話し合えば、アイデアが生み出されて、今まで考えつかなかったこと、出来なかつたことが出来るかもしれない。地域を元気にするヒントがここに凝縮されています。

ときどき 記者 廣瀬朋美
問合せ
住之江区まちづくりセンター
(運営主体:住之江区社会福祉協議会)
住之江区御崎3丁目1番17号
TEL/06-6654-5017
E-mail info@sumimachi.jp

中小企業が地域のパイプ役に

住之江区内の企業やNPO、地域が交流会で、課題を共有し、それぞれの団体の強み、知恵を出し合い生み出された協働事例は40を超えています。その中から、地域の子どもの出会い、本業を活かした社会貢献活動に取組む企業を紹介しします。

株式会社一二三工業所

パイプパズルに再利用

住之江区にある創業62年の設備会社。株式会社一二三工業所は、主に小中学校や病院などの給排水衛生工事や空調設備工事を行っています。同社3代目の代表取締役



パイプパズルを通して子どもたちと交流しています

一二三健夫さんは「目立つ仕事ではないけど、住民の暮らしを支えています。人と人をつなげるパイプの役割ができれば」と地域貢献活動に積極的です。また住之江区社会福祉協議会住之江区まちづくりセンター等が主催する企業・NPO・学校・地域交流会に参加し、区内の多様な団体との出会いから刺激を受けています。昨年「地域の子どもたちに仕事のおもしろさや職業観などを伝えたい」と配管工事で余った廃材を再利用し、いくつかのパイプをつなげ形を作る「パイプパズル」のワークショップを始めました。カチツと音がなり、くっつけたら離したり何度も繰り返して遊ぶことができます。

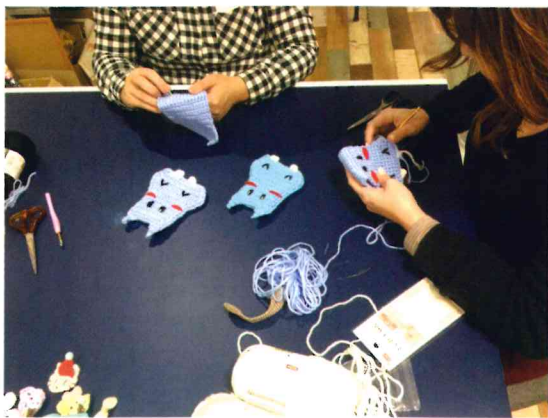
縁の下の力もち



株式会社一二三工業所 代表取締役 一二三健夫さん

このパイプパズルを提案した職員は、彼自身が母子家庭で育ち、子ども支援の活動に関心がありました。そこで同区内の子どもから高齢者までの居場所づくりをするNPO法人すみのえ育が運営する「はぐ食堂」の「こどもじかん」に出張し、パイプパズルを通じて子どもたちとの交流が始まりました。この縁から、子どもたちが安心して食事できるようにと、衛生的な3層式のシンクの取り付け工事を無償で行いました。

今年には区内小学校を訪問して同ワークショップの開催を予定。活躍の場が広がっています。さらに、昨年12月には、企業と福祉作業所がコラボして新たな商品を生産する「福祉未来価値創造大賞2017」で企業マスコットキャラクター「ひふみん」



市内の福祉作業所と協働で「ひふみん」エコタワシを作成

のエコタワシが大阪府知事大賞に輝きました。「目の前で喜んでくれる子どもたちの姿を見るとみんなの仕事のモチベーションが上がります」と一二三さん。日本の企業全体の99.7%が中小企業といわれています。(※)先代から地域に根付き、住民の暮らしを支えている中小企業が、地域の子どもの大切さ、身近な大人が生き生きと働く姿を伝えることに意義を感じています。

※2017年版中小企業白書(経済産業省)参考